

授業改善等に関する報告書（2023 年後期）短期大学部

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

【2023（後期）日本語コミュニケーション学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
アナウンス技術演習	鹿島 千穂	大部分の項目で平均を上回り、受講生のみなさんが「授業を通して成長を実感できた」と回答したことを嬉しく思います。説明のわかりやすさや声の聞き取りやすさ等、今回のアンケートで高い評価を得た項目は、本授業を通してみなさんに身につけてもらいたいスキルでもありました。教員としてデモンストレーションできたてよかったと思います。本授業での学びをぜひ今後活かしてってください。
コミュニケーションと心理	大塚 みさ	月曜1限で、小テストから始まる授業でしたが、みなさんが真剣に取り組み、多くの学びを得てくれたと感じています。 社会心理学やコミュニケーションについての理解が深まったというほかに、日常において相手の気持ちを汲み取る力が身についたという意見もありました。グループワークを基盤とした授業でしたが、多様な意見が聞けて勉強になった、コミュニケーションやディスカッションのスキルが身についたといった声が多く寄せられ、うれしく思いました。 一方、1限が辛かった、同じ学年の学生がチームにいなかったという声もありました。これらについてはできる限り改善を図ります。
データ分析入門	河野 康成	本年度で最後の授業となりましたが、受講生のレベルは全体的にとても高かったと思われます。その要因として考えられるのが、文章の読み書きです。データ分析関連の授業では、パソコンやExcel操作に焦点が当てられがちですが、分析そのものの理解力や結果考察力の方が重要です。また、要領の良さよりもこつこつ進めることで成功するケースが多々あります。本授業で得られた能力は、社会で通用しますので、自信を持って様々なことに臨んでください。
ビジネスコミュニケーション	板倉 文彦	授業評価につきましては、概ね平均値程度またはそれ以上でしたので安心しています。 またフリーコメントからは、ケーススタディや実社会での話が役立ち今から実践できることが分かったといった意見を多くいただきました。授業ではケーススタディを極力取り入れ、学生の皆さんの理解を深められるよう工夫を重ねてきましたので、ある程度効果が出ていることを実感することが出来ました。 今後は、より一層学生の皆さんの理解が深まり満足度が上がるよう、ケーススタディを始め授業を工夫していきたいと思います。
ビジネスマナー入門	佐藤 圭子	この科目を通して学んだことを実生活に結び付けて、自信を持って職業人になってくださることを願っております。せっかく学んだ機会を逃さずに「資格」という形にしてくださいと欲しいです。
ビジネスリテラシー応用	板倉 文彦	本科目の評価については、総体的には同一科目群と比較して問題ない程度でした。 しかし、「教員の声の聞き取りやすさ」および「意欲的に取組んだか」の2点は平均値より低い値となってしまいました。前者は小さめの教室でマイクなしでしたので、教員サイドとしても極力声量を出すよう気をつけていましたが、横に長い教室でしたので至らなかったものと思われます。今後類似の事例が出た場合は、人数が少なければ学生をある程度固めるようにして改善したいと思います。 後者につきましては、講義内容が現役学生にとっては少し先の話で難しい面もあったかと思しますので、今後は分かりやすくするために、ケーススタディを増やしていきたいと思います。
ビジネス文書演習	佐藤 圭子	14週の授業を通して、皆さんが確実に力をつけていくのが実感できました。毎回たくさんの文書作りでしたが、きちんとこなしてくださったことをとても嬉しく思っております。
プレゼンテーション入門	鹿島 千穂	演習中心で発表の機会が多い授業ですが、週あたりの予習復習時間が平均を上回っていたことや、「授業に意欲的に取り組んだ」と回答した学生が多かったことから、みなさんが熱意をもって取り組んだことがわかります。今年度の実施内容を振り返り、次年度もブラッシュアップして授業を展開していく所存です。
ライティングスキルb	鹿島 千穂	ライティングの中でも企画書の作成を主軸とした授業ですが、同時に情報収集力やプレゼンテーション能力を高められるよう工夫して授業を展開しました。多くの受講生が「授業に満足した」「自身の成長が実感できた」と回答したことを嬉しく思います。授業で学んだ内容を、ぜひ今後の学生生活や社会人生活に活かしてってください。
ライティングゼミb	高瀬 真理子	意欲的な受講生が多く、高い評価を得ることができました。ライトノベル作家で編集者という卒業生を招聘できたこともよかったと考えています。自由度の高さや、学生の書きたいことを最大限引き出そうとするような指導が主であったためか、学生たちが生き生きしていたのが印象的でした。商業発行についても社会連携として漸次進めていく予定です。
企業と情報	板倉 文彦	授業アンケートの評価結果は、概ね高評価を頂きましたので安心しました。しかし「担当教員の声や言葉が聞き取りやすかったですか」の問いについては、平均値を下回ってしまいました。本科目はオンデマンドでしたのでマイク性能にも問題があるかもしれませんが、次回の授業までには機器の確認をしておきたいと思います。 また、フリーコメントでは企業と情報に関する理解が深まったとの意見や、他の科目（「ビジネスコミュニケーション」）とリンクできているといった、こちらが意図した結果を示すコメントを頂けていましたので、ある程度理解してもらえて良かったと感じています。

【2023（後期）日本語コミュニケーション学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
基礎ゼミ（①）	大塚 みさ	毎週の課題を通して積み上げていく授業であるため、それなりに負担を感じたかと思いますが、一人ひとりが真剣に取り組めたと感じています。一方、アンケート結果では授業外の学習時間には個人差が見られました。また、フィードバックに力を入れていたので、「双方向授業の工夫」のスコアが高く、安堵しました。 自由記述では、レポート作成やプレゼンのスキルが身についたという声が多かったほか、社会に目を向けて探究心を育成できた、論理的思考力が習得できたという声が寄せられてうれしく思いました。レポートやプレゼンのスキルを2年次にも活かしたいという意見がありましたが、ぜひともそれらのスキルにさらに磨きを掛けていってほしいと願っています。
基礎ゼミ（②）	鹿島 千穂	大部分の項目で平均を上回り、「授業を通して成長を実感できた」と回答した受講生が多かったことを嬉しく思います。また、予習復習時間が平均を上回っていたことから、レポート執筆や発表に対してみなさんが精一杯取り組んだことが見てとれます。本授業で学んだ内容を、2年次の「卒業研究a/b」での卒研レポート執筆に役立ててください。
基礎ゼミ（③）	高瀬 真理子	概ね平均的な結果であったと思う。文章要約のコツについて、説明することが多々あったが、思いのほか、結果が伸びて満足している。
基礎ゼミ（④）	西脇 智子	履修生の皆さんが意欲的に授業に取り組んでくれたことを大変嬉しく思います。なお、説明のわかりやすさや教材のわかりやすさの項目で平均を下回った点を参考にして今後の授業改善に取り組んでいくつもりです。
自己表現法（①）	大塚 みさ	日コミの学生は自らを控え目に評価する傾向がありますが、成長実感のスコア4.71から、みなさんの健闘ぶりがうかがわれ大変うれしく思いました。毎週の小テストや課題に苦戦したかと思いますが、双方向授業の工夫について4.86という高い評価を得られたことも光栄でした。 自由記述欄には「自己分析」「自己理解」「自己PR」というワードがたくさん並んでいました。自らと向き合う機会も多かったですが、グループワークを通してコミュニケーション力が高まったという声もあり、みなさんの、あらゆる機会を十二分に生かす姿勢が伝わってきました。 この授業で習得したスキルと自信をこれからの進路選択において発揮してほしいと願っています。
自己表現法（②）	鹿島 千穂	大部分の項目で平均を上回り、「授業を通して成長を実感できた」と回答した受講生が多かったことを嬉しく思います。ただし、予習復習時間が平均よりやや短いことが気になりました。毎回の小テスト以外にもう少し課題を提示し、教室外での学修時間を増やす取り組みをすべきであったかと感じています。
自己表現法（③）	高瀬 真理子	平均的な評価と同時に自身の成長について学生それぞれに実感があったようなので、良かったと思っている。対面での自己表現は苦手な人が多いが、少しずつ、現実を学びながら慣れて行ってくれればと思う。
自己表現法（④）	西脇 智子	履修生の皆さんが意欲的に授業に取り組んでくれたことを大変嬉しく思います。なお、説明のわかりやすさや教材のわかりやすさの項目で平均を下回った点を参考にして今後の授業改善に取り組んでいくつもりです。
女性文学	高瀬 真理子	説明が分かりやすく、もっと学びたいとの結果を得て、とてもうれしく思った。 この先も、分かりやすく、興味を持ってもらえるように、難しい教材を興味深い教材として提供できるように励みたい。
情報と社会	板倉 文彦	授業評価について、「さらに学びたいと思ったか」と「成長が実感できたか」の項目が平均値より低くなっているところが気になりました。 フリーコメントでは、社会のICT化の状況が理解できたとの意見を多数いただきましたが、その中で内容は難しかったとのコメントがあり、その辺りが影響している可能性があるのではないかと分析しています。 今後はよりケーススタディを取り入れ、難しい内容でも理解が促進されるよう工夫をしていきたいと思います。
卒業研究 b	高瀬 真理子	結果は平均的だが、文豪ものより、現代小説を好きだからやるという学生の方が、さまざまな意味で伸びが良かった。 このことには十分留意しながら、本人のモチベーションを生かせるゼミ運営をやっていければと思う。
卒業研究 b	鹿島 千穂	大部分の項目で平均を上回り、受講生のみなさんが「授業を通して成長を実感できた」と回答したことを嬉しく思います。特に、週あたりの予習復習時間が全体平均を大幅に上回っていたことや、全員が「この授業に意欲的に取り組んだ」と回答していたことから、みなさんが卒業研究レポートの執筆や中間発表に力を注いだことがみてとれます。次年度も内容をブラッシュアップしつつ、授業を展開していきたいと考えています。
卒業研究 b	橋詰 秋子	短大の学習の集大成として、卒業研究レポートに取り組む科目でした。成長度と満足度が高い数値を示しており、嬉しく思います。成長を実感した人が多かったことを嬉しく思います。

〔2023（後期）日本語コミュニケーション学科〕授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
卒業研究 b	大塚 みさ	前期の「卒業研究a」をベースに、この科目では中間報告と卒業研究レポートを仕上げるという大きな課題がありましたが、一人ひとりが真摯に取り組み、優れた成果を収めることができました。授業外学習時間は1.69hと大変高く、みなさんの奮闘ぶりが伝わってきました。自由記述欄には、課題探究力、論理的思考力、プレゼン、レポート作成についての自己成長についての意見が多く寄せられました。さらに他のゼミ生との交流や協働力についての声も見られとてもうれしく思いました。「卒業研究a」からの一年間で培った力を、今後も様々な場所で生かして欲しいと思います。
卒業研究 b	板倉 文彦	ゼミでは、グループや個人で調査・研究・まとめ・発表を行ない、実際に企業の方から評価を頂くといった、実践的な取り組みをしてきました。その中で学生の皆さんには自ら積極的に取り組むことを要求してきましたので、厳しい面も多々あったかと思えます。そのような中で、概ね平均値程度またはそれ以上の評価を頂けたことは、学生の皆さんが前向きに取り組んでいただけた結果かと思えます。今後も「前向きに取り組むことの価値」を学生の皆さんに伝える努力を重ねていき、結果的に満足を得られるよう努力していきたいと思えます。
点字の世界	西脇 智子	履修生の皆さんが意欲的に授業に取り組んでくれたことを大変嬉しく思います。なお、説明のわかりやすさや教材のわかりやすさの項目で平均を下回った点を参考にして今後の授業改善に取り組んでいくつもりです。
日本語コミュニケーション入門	西脇 智子	履修生の皆さんが意欲的に授業に取り組んでくれたことを大変嬉しく思います。なお、説明のわかりやすさや教材のわかりやすさの項目で平均を下回った点を参考にして今後の授業改善に取り組んでいくつもりです。
日本語学入門 b	大塚 みさ	この授業はオンデマンド形式でしたが、毎週の課題にみなさんが熱心に取り組み、多角的な意見を書いてくれたので、まるで毎週顔を合わせて授業を行っているかのような錯覚を覚えるほどでした。最後のテストも大変よくできていました。日本語について理解と関心が深まったという意見のほか、楽しく学べた、わかりやすかったという声がありうれしく思いました。オンデマンド授業で効果的に学んでもらうために工夫を凝らしましたが、動画が3本に分けられていて効率的に学べた、respon課題を通して思考力や発見力が身についたという意見があり、安堵しました。日本語について学ぶ機会は、日常生活にもたくさんあります。これからも多くの発見を重ねて欲しいと思います。
日本文学の歴史 d 現代	高瀬 真理子	高校までの文学史とは視点も違い、オンデマンドであるため、テキストからの逸脱がしにくいと同時に、データ化されていない資料の取り扱いに終始苦労した。できれば、文学史から現代を考える生きた学問として、今日を考える糧となるように工夫を続けたい。